

だいぜん じ たまたれぐう おに よ 大善寺玉垂宮の鬼夜

所在地/久留米市
指定/重要無形民俗文化財



大松明に火がついている様子

「大善寺玉垂宮の鬼夜」は、大晦日の夜から正月7日まで行われる「鬼会」の最終日に行われる行事です。1600年余りの伝統があり、日本三大火祭りの一つに数えられるとともに、国の重要無形民俗文化財に指定されています。この「鬼夜」は、今から約1600年前の368年1月7日、藤大臣（玉垂命）が、「ゆすらちんりん」という悪者を、真っ暗な夜に松の木に火

をつけた明かりをもって探し出し、退治したのが始まりだと言われています。

この「鬼夜」のように、年の初めに7日や14日などを節目として、僧侶らが1年の五穀豊穡（※1）や無病息災（※2）をお祈りするといった行事は「修正会」と呼ばれ、寺院の正月行事として各地でおこなわれていました。しかし、明治時代をさかいに寺院として「修正会」をおこなうことが難しくなりました。ですが、福岡県の筑前・筑後地方では、正月の7日や14日などに村の田んぼや神社の境内などで盛大に火をたく行事があります。これは、寺院でおこなわれていた「修正会」を地域の行事として残していったものと考えられますが、「鬼夜」も地域の祭として残り、今に伝わっているのです。

1600年もの長い間、地域に受け継がれてきた「鬼夜」ですが、これからも続けていくために様々な工夫をおこなっています。代表的なものとして、大善寺町の若者が大松明を担いでいたものを、町以外の若者にも協力をお願いして担いでもらったり、外国人も行事に参加できるようにしたりしています。この様に、現代に合わせて変えられるところは変えていながら、「鬼夜」という伝統は今も受け継がれていっています。

※1 五穀豊穡：米や麦といった穀物が豊富に実ること。

※2 無病息災：病気をせずに健康でいること。

【もっとくわしく調べたい】

○鬼夜保存協会

【大善寺玉垂宮の鬼夜に行ってみよう】

○西鉄大善寺駅から徒歩5分